

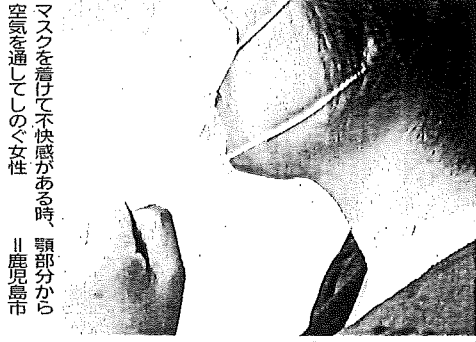
接触過敏や皮膚疾患…

マスク着用困難「理解を」

県内

鹿児島県で新型コロナウイルス感染症が拡大し「まん延防止等重点措置」が適用される中、においや触感に強い苦痛を感じる「感覚過敏」や皮膚疾患でマスクをするのが難しい人に厳しい目が向けられるケースがある。当事者は「事情を知って」と訴える。

鹿児島市の中学1年「しさに耐えられず、学生生活は苦。息苦。校でマスクを外すよう



マスクを着けて不快感がある時、顎部分から空気を通してしのぐ女性
鹿児島市

「マスクを着けられませんか」。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、マスクを着用することが求められるようになった。顔に物が触れる「接触過敏」が原因の「ストレス性低酸素血症」と誤解されることがある。当事者は「わがまま」ではなく、苦痛に感じていることを伝えたいと訴える。

「マスク着けられません」

霧島市、周知カードで啓発

霧島市は6月から呼吸器系の病気が原因でマスクを着用することが困難な人への理解を呼び掛けている。「マスクを着けることができません」と書いたカードを窓口で入手できるようにした。市役所の福祉課で、市民課の福永義一（ふくのり）と、男女共同参画グループ長（ふ）は「着けられない理由を説明する負担を和らげたい。何か訳がある」と訴える。当事者の高校生らが運営する「感覚過敏研究部」（霧島市）は7月以降、周知のカードを福祉課、保健センター、接合会や病院に送る。マスクをしてもら



り、保護者は「つらくても周りに気にして言えない人はいないはずだ」と訴える。感覚過敏は視覚や聴覚、嗅覚、味覚、触覚などが外部の刺激に過剰に反応し、不快感を引き起こす。状態や程度には個人差がある。自閉症スペクトラム障害（ASD）など発達障害者に多いとされ、強いストレスを抱える人にもみられることがある。

静岡大学教育学部の香野毅教授（50）は特別小児や顎がゆがみ、入場を断られたとの相談が相次いだためだ。加藤路所長（16）は「会場での対応を考えるきっかけになり、当事者や事情を知らない人の不安を和らげたい」と訴える。加藤路所長（16）は「会場での対応を考えるきっかけになり、当事者や事情を知らない人の不安を和らげたい」と訴える。

支援教育は「マスクの肌触りやにおいを苦痛とするケースが多い」と指摘。布マスクにしたり、外していいタイミングを伝えたりすることが有効という。感覚過敏以外に、皮膚トラブルや心臓病を抱える人、知的障害者なども、着用するのが難しいケースは少なくない。

情報アクセスを法制化

議連「今国会で成立を」

障害者



議連総会で法制化に向けてあいさつする副議長長（中央）

障害のある人の情報アクセスを権利として保障する「障害者情報アクセス法」が、今国会に提出される。衆議院情報政策委員会（菅義偉委員長）で先に審議する。

「一見、総会で新法の条文案を示し、各党が承認手続きに入る」と決まった。議連は6月15日（金）の国会で成立させることを目指す。新法は障害者がテレビなどから情報を得たり、他者と意思疎通を図ったりする際の障壁を減らすことにより、共生社会を実現することを目指す。国や地方自治体の施策として情報取得に役立つ機器の開発・普及・利用の促進、防災や緊急通報の体制整備などを義務付けた。現在、建物や移動をめぐりバリアフリー法はあるが、情報取得と意思疎通を包括的に支える法律はない。法案の第10条は、その

り、息苦しくなる。買いたい物は短時間で済ませ、1時間以上の会合は控えるようにした。着ける必要がある場合、顎部分を折り畳み、空気を通してしのぐ。着けると大きなストレスを感じる人がいる。していない人を見たら何かあるかも」の事情、判断を尊重し

てほしい」と話した。（五反田和美、鹿児島市）

「政府は必要な法制上または財政上の措置を講じなければならぬ」と規定。新法成立後も、情報取得・意思疎通をめぐり個別分野の施策を法的、財政的に支えるよう政府に念を押している。

例えば、聴覚障害者が手話で意思疎通する機会を求めたり、視覚障害者がテレビの緊急速報の音声読み上げを求めたりしているが、現在、それらを後押しする法的な根拠は乏しい。議連事務局長の滝波宏文参院議員（自民）は本紙の取材に「新法が成立したらそれで終わりではない。この第10条を足掛かりとしてバリアフリーを求めたい」と語った。

なお、国連の障害者権利条約は第9条、第21条で障害者の情報取得や意思疎通の権利を定めているが、国連の障害者権利委員会（国連障害者権利委員会）は日本ではその法的措置が不明瞭だと、政府に質問書を提出しており、政府は8月にも国連の審査を受けることになっている。（堀田敬亮）